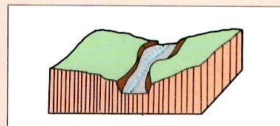


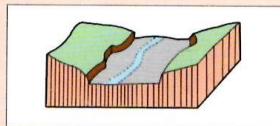
③ 川の中流

中流域では、水の流れはゆるやかになります。川原をけずる働きが激しいので、川はしたいに曲がり（蛇行）、川原が広がります。七北田川、広瀬川、名取川にそって、川岸からはなれるにつれて階段状に高くなっている河岸段丘が発達しています。

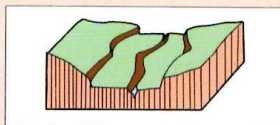
段丘のできた



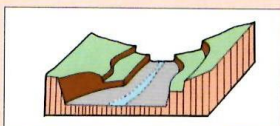
①川はばが少しずつ広がります。



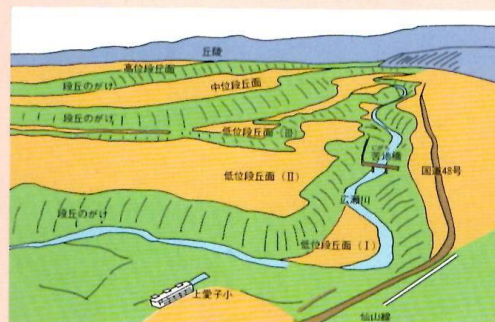
②広い川原ができます。大雨のときは川は川原いっぱいにも流れますが、いつもは川原の一部を流れています。



③陸地がもち上がるか、海水面が下がったりすると、川の流れは、川底を激しくけずるようになります。



④海水面の変化などがおちつくと、②の川原よりも低いところに、新しい川原がつくられ、すこずつ広がっていきます。③と④がくりかえしおこると、川岸になん段もの階段のような地形ができます。



▲ 芋沢付近の段丘の図

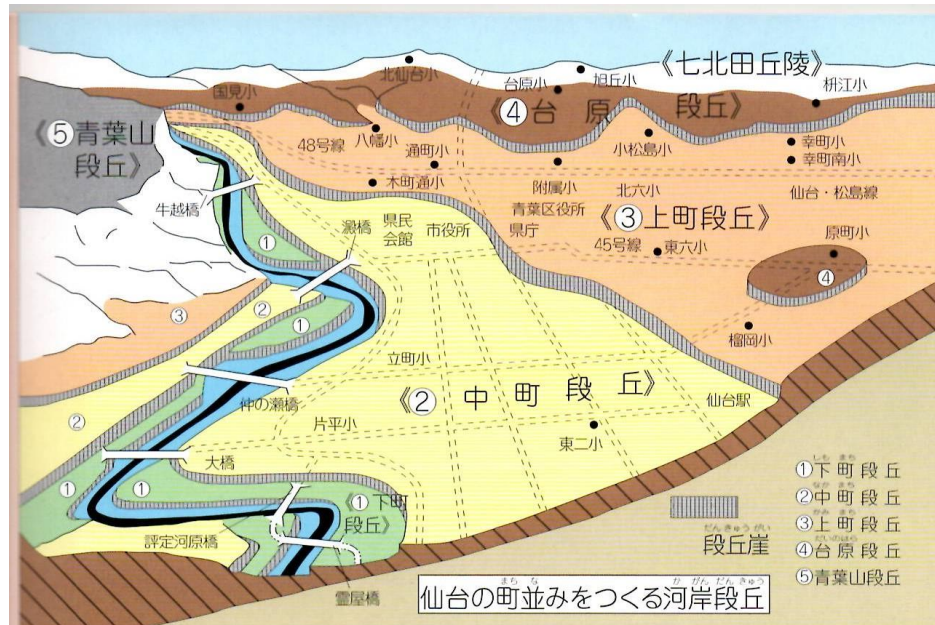


▲ 古い時代の川原の石が積み重なっているがけ（鳴合橋付近）
（段丘面が昔の川原の跡であることがわかります）

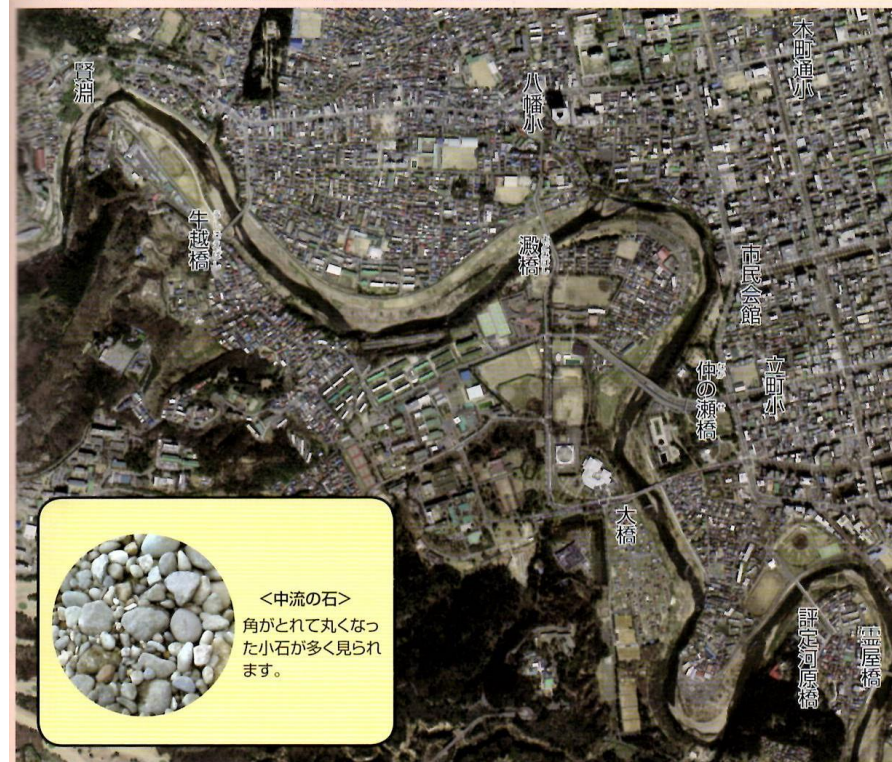
⑧



▲ 白く波立って流れる瀬と、流れもおそく深くなっている淵



▼ がけをけずり曲がりくねって流れる広瀬川（牛越橋～霊屋橋）



＜中流の石＞
角がとれて丸くなった小石が多く見られます。

⑨